

凍結を防ぐには

- 暖かい地域でも機器や配管内の水が凍結し、破損するおそれがありますので、下記の必要な処置をしてください。
- 停電時は凍結予防ヒーターが働きませんので、「水抜きによる方法」で凍結による破損防止の処置を行ってください。
(※停電時はリモコンの操作は出来ませんが、それ以外の操作を行ってください。)

対策①

通常の寒さの場合

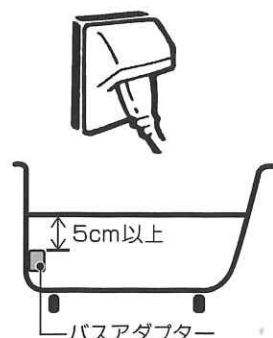
《凍結予防ヒーターとポンプ運転による方法》

1 電源プラグを抜かない

外気温が下がると凍結予防ヒーターが自動的に機器内を保温します。
※リモコンの運転スイッチが「切」の状態でも働きます。

2 浴槽内のバスアダプターの上端より5cm以上水（お湯）を入れておく

外気温が下がると自動的にポンプで浴槽の水を循環させて凍結を予防します。（燃焼はしません。）
※給湯栓から水（お湯）を入れた場合は、配管内を満水にする必要があるため、たし湯、またはさし水を行ってください。



対策②

冷え込みが厳しい場合※

《通水による（蛇口から水を流す）方法》

※-15℃以下または、-15℃より気温は高くても風がある場合

1 電源プラグを抜かない

2 給湯栓から水を流す

1. リモコンの運転スイッチを「切」にしてください。
2. 給湯栓より少量の水（太さ約4mm）を流したままにしておきます。

※サーモスタット付きやシングルレバー式の混合水栓の場合、混合水栓側の温度設定を最高温度側にしてください。
(再使用時には温度設定にご注意ください。)

3. 流量が不安定になることがあるので、約30分後にもう一度確認してください。

3 浴槽内のバスアダプターの上端より5cm以上水（お湯）を入れておく

外気温が下がると自動的にポンプで浴槽の水を循環させて凍結を予防します。（燃焼はしません。）
※給湯栓から水（お湯）を入れた場合は、配管内を満水にする必要があるため、たし湯、またはさし水を行ってください。



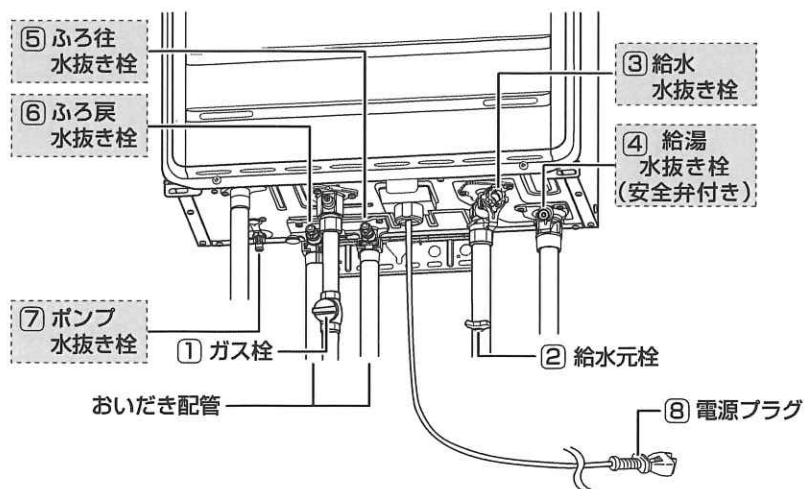
知っておいてね

- 「対策①」「対策③」は、機器内は保温しますが、配管・バルブ類の凍結予防はできませんので、配管は水入口・湯出口まで保温材でおおうなどして凍結予防してください。
- 「対策②」は、機器本体だけでなく、給水、給湯配管・バルブ類の凍結予防もできます。
- 不凍栓をご使用時は浴槽の水を循環することができませんので、その地域に合わせたふろ配管の保温処理（保温材など）が必要です。

対策③

長期間使用しない場合

《水抜きによる方法》



警告



ぬれ手禁止

■ぬれた手で電源プラグを触らない
雨が降り出している場合は電源プラグを抜かない
→感電のおそれがあります。

まずはじめに

- ①浴槽の水を排水します。

リモコンを操作します（必ず行う）

（ポンプを回転させ、おいだき配管内の水を抜きます。）

- ②運転スイッチを「切」にします。

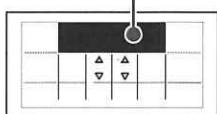
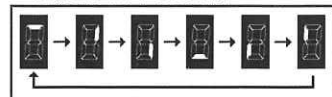


- ③浴室リモコンの「たし水（さし水）スイッチ」と「たし湯スイッチ」を同時に5秒間押します。

表示画面に「oF」が点滅したり、表示画面が動きはじめたら手を離します。（リモコンの種類によって表示は異なります。）

約5分後にメロディやブザーが鳴り、消灯します。

<水抜き運転中の表示例>



ガスや水を止めます

- ④ガス栓 ① を閉めます。
- ⑤給水元栓 ② を閉めます。

給湯側から水抜き栓を開けます

- ⑥すべての給湯栓を開けます。（シャワーも含む）
- ⑦給水水抜き栓 ③、給湯水抜き栓 ④ を外します。

ふろ側の水抜き栓を開けます

- ⑧ふろ往水抜き栓 ⑤、ふろ戻水抜き栓 ⑥、ポンプ水抜き栓 ⑦ を外します。（⑤・⑥・⑦は順不同）
- ⑨電源プラグ ⑧ を抜きます。
- 再度使用するまでこのままにしておきます。



水抜き栓を外すときの注意

■すべての水抜き栓を外す 5か所

■完全に抜けるまで外す

- ※機器の水抜きをする場合、リモコンの運転スイッチを「切」にし、機器が冷えてから行ってください。
- ※水抜き栓を外すときは、水が飛び出すおそれがありますのでゆっくり外してください。

良い例

完全に抜けるまで外す



悪い例

少しゆるめただけ

